

研究業績一覧（2017年1月～12月）

著者	佐久大学
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	10
号	1
ページ	77-83
発行年	2018-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1050/00000215/



研究業績一覧(2017年1月～12月)

この研究業績掲載内容は、平成29(2017)年1月から12月までに刊行(発表)された著書、論文、翻訳、学会発表、研究報告書、研究助成の取得等である。(記載順序は、筆頭著者の姓のアルファベットの順とする)

著書

柿澤美奈子(2017). 第3章3暴力的な衝動行為をくり返す患者. 遠藤淑美, 徳山明広, 南方英夫(編). 統合失調症の看護ケア. 81-86, 東京: 中央法規.

小山智史(2017). Q14服薬管理. 内田陽子(編著). 一般病棟の認知症患者「こんなときどうする?」. 111-117, 東京: 照林社.

征矢野あや子(2017). 5高齢者のヘルスプロモーション. 堀内ふき, 大淵律子, 諏訪さゆり(編集). ナーシンググラフィカ 高齢者の健康と障害(第5版). 228-244, 大阪: メディカ出版.

征矢野あや子(2017). 転倒・転落リスクアセスメント. 日本転倒予防学会監修. 日本転倒予防学会認定転倒予防指導士公式テキストQ & A. 69, 東京: 新興医学出版社.

征矢野あや子, 鈴木みずえ(2017). Q8-1転倒・転落アセスメントシートとは?. Q8-2転倒・転落のインシデント・アクシデント報告とは?. 日本転倒予防学会監修. 日本転倒予防学会認定転倒予防指導士公式テキストQ & A. 70-73, 東京: 新興医学出版社.

征矢野あや子(2017). Q56 認知症高齢者の二重課題(多重課題)の遂行と転倒予防との関連は. 日本転倒予防学会監修. 認知症者の転倒予防とリスクマネジメント 病院・施設・在宅でのケア(第3版). 275-278, 東京: 日本医事新報社.

論文

古越小百合, 吉川三枝子(2016). 職場におけるメンタリングの実態と看護師のキャリア形成. 日本看護学会論文集 看護管理(1347-8184), 47, 54-57.

廣橋雅子, 高木琴代(2017). 台北医学大学 日本老年ケア研修—地域に根付く佐久市の連携システムについて—. 佐久大学信州短期大学部紀要, 28, 48-53.

細谷たき子, 堀内ふき, 坂江千寿子, 他(2017). 佐久大学公開講座 賢い患者になるための患者学. 佐久大学看護研究雑誌, 9(1), 33-39.

稲井洋子, 弓削美鈴(2017). 看護学生および助産学生の性意識と性行動. 日本生殖心理学会, 3(2), 19-26.

小林睦, 鈴木千衣, 橋本佳美, 清水千恵(2017). 長野県東信地区における乳幼児によく起こる症状・病気に対する家族の医療行動の実態調査—第2報—. 佐久大学看護研究雑誌, 9(1), 15-24.

Masako Saito, Mariko Ohara, **Yoshiko Tsukada** et al.(2017). Development of Community-based Disaster Prevention and Mitigation Program for Volunteer Leaders of Villages in Disaster-prone Area of Bangladesh, International Journal of Nursing & Clinical Practices, Volume 4. 2017. 240. ISSN: 2394-4978. IJNCP, an open access journal. <https://doi.org/10.15344/2394-4978/2017/240>

Park SJ, **Soyano A**, Okada S, Imamura H, Nagashima M, **Horiuchi F**.(2017). Effects of a Gatekeeper Training for Suicide Prevention in Changing of Cognitive Social capital of Participant. ストレス科学, 31(3), 237-244.

竹内久美子, 口元志帆子, 伊藤薫, 石渡幸穂, **松下由美子**(2017). 耳鼻科日帰り手術における電話相談の実態—患者の不安を軽減する看護師の関わり—, 看護実践の科学, 42(11), 69-73.

内山明子, 吉川三枝子, 清水久美子, **松下由美子**(2017). 「SAKU看護管理研究会」活動報告: アンケート評価から. 佐久大学看護研究雑誌, 9(1), 25-31.

山本順子, 堀内ふき, 征矢野あや子. 介護老人保健施設で生活している高齢者の苦痛の実際と抽象的な質問と具体的な質問による回答の違い. 佐久大学看護研究雑誌, 9(1), 1-13.

吉田文子, 清水千恵, 塩入とも子, 大和田由希, 橋本佳美, 鈴木千枝, 八尋道子, 征矢野あや子, 吉田和美, 吉川三枝子(2017). 「臨地実習指導者研修セミナー2016」評価: 指導者へのモチベーションの向上. 佐久大学看護研究雑誌, 9(1), 41-50.

弓削美鈴, 稲井洋子(2017). 性の健康意識尺度作成の試み—性的に健康な大人を目指して—. 日本生殖心理学会, 3(2), 18-22.

翻訳

なし

学会発表

Yukako Ando, Takako Yasuda, Ryoko Ohara, **Misuzu Yuge** et al.(2017). Japanese Nursing Students' Sense of Belongingness During the Clinical Placement. The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference. Taipei, Taiwan.

福宮智子, 井出由美, 八尋道子, 他(2017). 臨床看護師のための倫理教育に向けて: 道徳的感受性に関する看護師への実態調査日本看護倫理学会第10回年次集会(口演), 抄録集81.

橋本佳美(2017). エビデンスに基づいた障害保健福祉施策の推進: 障害に関するニュース3年間のモ

ニタリングから見えてきたこと. 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 166.

石丸美奈, 鈴木悟子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 杉田由加里, 雨宮有子, 佐藤紀子, 原田静香, 櫻井しのぶ, 鶴岡章子, 他(2017). 大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進するための教員側の要件. 日本地域看護学会第20回学術集会講演集, 197.

河野梢子, 八尋道子(2017). チーム医療の推進のための「協力力」をいかに育むか: 基礎教育における協同学習への期待. 日本看護倫理学会第10回年次集会(示説), 抄録集110.

小林睦, 竹尾恵子, 東田吉子, 小山智史(2017). 看護教員の教育能力に関する国際比較研究—看護教員の教育能力自己評価に関する日本・ベトナム・タイの調査—. グローバルヘルス合同大会2017プログラム・抄録集, 206.

黒川美知代, 杉山良子, 征矢野あや子(2017). 赤十字病院における転倒・転落リスクアセスメントの現状. 日本転倒予防学会誌, 4(2), 38.

前田樹海, 小西恵美子, 八尋道子, 他(2017). 道徳的感受性質問紙日本語版J-MSQ2017の開発. 日本看護倫理学会第10回年次集会(口演), 抄録集82.

前田直子, 松下由美子, 米田昭子(2017). 第11回日本慢性看護学会学術集会. 日本慢性看護学会誌, 11(1), A80.

真下綾子, 工藤真由美, 松下由美子, 佐野宏一郎(2017). 回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリ看護実践評価尺度開発の検討. 第11回日本慢性看護学会学術集会. 日本慢性看護学会誌, 11(1), A64.

真下綾子, 工藤真由美, 松下由美子, 佐野宏一郎(2017). 回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリ看護実践評価尺度を用いた看護ケアに影響する要因の検討. 第37回日本看護科学学会学術集会. 電子抄録集, O21-3.

松岡貞利, 古閑純子, 鈴木江三子, 東田吉子, 大橋一友, Johnson Taiwo(2017). ナイジェリア巨大都市における母性保健プロジェクトのインパクト評価. 第32回日本国際保健医療学会(グローバルヘルス合同大会誌), 66.

宮原香里, 吉田和美(2017). 看護師のナースシューズの使用状況と靴の認識に関する実態調査. 第43回日本看護研究学会学術集会抄録集, 156.

水野照美(2017). 看護モデルの臨床への適用経験を通して考える患者と看護師のエンパワーメント. 第31回日本がん看護学会学術集会講演集, 131.

中村摩紀, 浅野均, 安川揚子, 小川仙月, 磯田信賢, 赤木裕子, 田畑邦雄, 渡邊俊文, 柳下文江, 堀内ふき(2017). 高齢者の自宅生活継続のために多職種で行う住環境調整の内容—介護支援専門員の聞き取り調査から—. 第21回茨城県総合リハビリテーションケア学会誌, 26, 36.

中村充浩, 河野梢子, 八尋道子(2017). 「役立つ」倫理研修ってなんだ?—今現場に求められている倫理研修とは—. 日本看護倫理学会第10回年次集会(交流集会), 抄録集66.

Mariko Ohara, **Yoshiko Tsukada**, Masako Saito et al.(2017). Development of Community-based Disaster Prevention and Mitigation Program for Volunteer Leaders of Villages in Disaster-prone Area of Bangladesh through simulation practice. International Conference on Impact of Global Issues on Women and Children, Manipal University: India. 28

Ryoko Ohara, Meiko Sokabe, **Misuzu Yuge** et al.(2017). Perception of Safety and Security During the Clinical Placement at Japanese Nursing Students. The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference. Taipei, Taiwan.

佐保美奈子, 渡邊香織, 中嶋有加里, 古山美穂, 山田加奈子, 高知恵, 工藤里香, 黒田裕子, 小笠幸子, 稲井裕見子, **上原明子**, 越智奈穂美(2017). 教育・医療現場における性的少数者・性の多様性への理解増進に向けて. 第37回日本看護科学学会学術集会抄録集, 97. (査読あり)

Kumiko Shimizu, Yoshiko Tsukada, Keiko Takeo, Fumiko Miyaji, Fuki Horiuchi, Yoshimi Hashimoto, Misuzu Yuge, Akiko Uehara, Yoshimi Takeuchi.(2017). Apply Japan 's Knowledge and Experience of Maternal, Newborn and Child Health for ASEAN Country—Acceptance of Cambodian Midwives by JICA Youth Program—. International Conference on Impact of Global Issues on Women and Children, Manipal University: India. 105

征矢野あや子(2017). 最新転倒・転落アセスメント・ツールを求めて—現状の課題と展望—学会調査報告. 日本転倒予防学会誌, 4(2), 36.

征矢野文恵, 細谷たき子, 友安直子(2017). 1日ドックデータの非肥満者を対象とした体重増加と保健指導判定値の異常との関連. 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 293.

鈴木真理子, 矢野彰(2017). 終末期がん患者・家族の意思決定の現状に関する文献レビュー. 日本看護倫理学会第10回年次大会講演集, 85.

鈴木美和, 石丸美奈, 杉田由加里, 鈴木悟子, 飯野理恵, 雨宮有子, 原田静香, **鶴岡章子**, 他(2017). 大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—研究指導担当教員の研究と社会的貢献に関わる能力の変化—. 日本地域看護学会第20回学術集会講演集, 109.

鈴木悟子, 石丸美奈, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 杉田由加里, 雨宮有子, 佐藤紀子, 原田静香, 櫻井

しのぶ, 鶴岡章子, 他(2017). 大学間連携による保健師業務研究サポートを効果的に推進するための保健師側の要件. 日本地域看護学会第20回学術集会講演集, 198.

竹内久美子, 松下由美子(2017). 看護師のキャリア発達支援に関する研究—入職3年間の認知傾向と組織コミットメントの関連—. 日本看護研究学会第43回学術集会. 日本看護研究学会誌, 40(3), 186.

竹内久美子, 松下由美子(2017). 看護師の初期キャリア発達における組織コミットメントの変容. 日本応用心理学会第84回大会論文集, 48. (日本応用心理学会第84回大会 優秀大会発表賞受賞)

束田吉子, 清水久美子, 坂江千寿子, 柴田真理子, 橋本佳美, 田中高政, 飯島良子, 上原明子, 竹内良美(2017). 長野県佐久市に於ける「アフガニスタン母子保健実施管理コース2017」実施報告. 第32回日本国際保健医療学会(グローバルヘルス合同大会誌), 65.

鶴岡章子, 石丸美奈, 鈴木美和, 他(2017). 大学間連携による保健師業務研究サポートの成果—業務研究を経験した保健師の成長の視点から—. 日本地域看護学会第20回学術集会講演集, 108.

上原明子, 中田覚子, 小林美記(2017). 新生児蘇生法Aコースにおけるチェックリストを用いたシミュレーションの実践と課題—実習前助産学生の学習意欲に焦点を当てて—. 第5回日本シミュレーション医療教育学会学術集会抄録集, 48. (査読あり)

上原明子, 中田覚子, 柳沢寛貴, 小口治(2017). 救急隊員向け病院前周産期救護のARCSモデルによる研修設計と評価(第2報)—研修前後における学習意欲の変化—. 第10回日本蘇生科学シンポジウム抄録集, 38. (査読あり)

上原明子, 中田覚子, 柳沢寛貴, 小口治(2017). 救急隊員向け周産期プレホスピタル研修の実践報告—多職種協働による研修設計の実施と課題—. 第45回日本救急医学会雑誌, 第45回日本救急医学会総会号, 666, 28(9). (査読あり)

上原明子, 柴田真理子, 竹内良美, 清水久美子(2017). 分娩期の助産診断・技術学における助産学生の学習成果に関する文献レビュー. 第9回日本医療教授システム学会総会抄録集, 100. (査読あり)

柳沢寛貴, 上原明子, 中田覚子, 小口治(2017). 救急隊員向け病院前周産期救護のARCSモデルによる研修設計と評価(第1報)—学習意欲の実態調査—. 第10回日本蘇生科学シンポジウム抄録集, 37. (査読あり)

安川揚子, 小川仙月, 中村摩紀, 浅野均, 赤木裕子, 磯田信賢, 田畑邦雄, 渡邊俊文, 柳下文江, 堀内ふき(2017). 福祉用具専門相談員が捉える高齢者が自宅で暮らし続けるための住まい. 第21回茨城県総合リハビリテーションケア学会誌, 26, 36.

依田明子, 宮崎紀枝, 細谷たき子, 友安直子, 征矢野文恵(2017). 地方の農産物直売所の運営に住
民が関わって生じた変化. 第76回日本公衆衛生学会総会抄録集, 415.

吉田文子, 清水千恵, 浅野均, 中田覚子, 吉田和美(2017). ルーブリック活用による個人ポートフ
ォリオ作成とその評価: 学生が身についたとする力, 第23回大学教育研究フォーラム発表論文集,
312-313. 京都大学. 2017. 3. 19, 20.

吉田和美, 宮原香里(2017). 看護師のナースシューズ底の摩耗が歩容に及ぼす影響. 第43回日本看
護研究学会学術集会抄録集, 155.

研究報告書

小高康正, 高遠三和, 横関祐子, 他(2017). 上田地域 死生観アンケート調査 報告書. 上田 生と死
を考える会.

箕輪千佳, 宮原香里, 二神真理子, 柳澤佳代(2017). 外来がん患者の不眠に対する自律訓練法の効
果. 平成26-28年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書(課題番号
26463360).

鈴木仁一, 上田紀美子, 橘とも子, 谷掛千里, 橋本佳美(2017). 障害グループ1年間の活動総括. 公
衆衛生モニタリング・レポート委員会平成28年度公衆衛生モニタリングレポート年次報告書, 24-
30.

研究助成の取得

細谷たき子(研究代表者), 宮崎紀枝, 依田明子, 征矢野文恵, 友安直子, 地方の農産物直売所に関
わった地域住民の変化と社会関連性(佐久大学学内研究費助成)

福宮智子(研究代表者), 井出由美, 佐藤陽子, 柏崎純子, 梅田恵, 八尋道子(研究分担者), 前田樹
海. 看護師の倫理的行動を促進する教育・支援プログラム開発のアクションリサーチ. 平成29-33年
度科学研究費基盤研究(C) (課題番号17K12093).

川西美佐(研究代表者), 山内豊明, 土屋文人, 三林洋介, 吉田文子(研究分担者), 服部智子, 堂本
司. 視線計測とプロセス解析を用いた看護師の注射確認方法の標準化と人材育成ツールの開発. 平
成25-平成29年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号25293439).

小高康正(研究代表者), 高遠三和, 横関祐子(研究分担者), 他(2017). 上田地域 死生観アンケート
調査 報告書. 上田市 平成28年度 わがまち魅力アップ応援事業.

太田勝正(研究代表者), 前田樹海, 八尋道子(研究分担者). 患者尊厳測定尺度国際版iPDSを英国の
病院評価のための標準ツールにする研究. 平成26-29年度日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的
萌芽研究(課題番号26670921).

竹内久美子(研究代表者), 松下由美子(研究分担者). 看護師のキャリア初期における組織適応に関する研究. 平成25-29年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) (課題番号25463364).

山内豊明(研究代表者), 三苦里香, 川西美佐, 吉田文子(研究分担者), 今磯純子, 相馬孝博, 中神克之, 佐伯街子. アセスメントモデルの構築ならびに実践能力育成に向けた学際的実証研究. 平成25-平成29年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号25293431).

吉田文子(研究代表者), 山内豊明, 川西美佐. TSASを用いたティーチングスタイルの日米比較研究. 平成28-平成31年度日本学術振興会科学研究費助成金基盤研究(C) (課題番号16K11933).

その他

松下由美子(2017). 特集: 第11回日本慢性看護学会学術集会記録1「会長講演より」慢性病とともに地域で生きることを支える. 日本慢性看護学会誌, 11(2), 70-72.

柴田真理子 2018年助産師国家試験全国統一模擬試験「さんもし」第3回. 解答と解説. 19, 48, 62-63. インターメディカル.

征矢野あや子(2017). 血管性認知症の高齢者の転倒予防. 認知症介護, 18(3), 9-15.

東田吉子 JICA アフガニスタン母子保健実施管理コース2017, 報告書

東田吉子 JICA タイ, 要援護高齢者等のための介護サービス開発プロジェクト(LTOP)看護・介護技術研修2017, 報告書

梅崎かおり, 堀内ふき(2017). 認知症高齢者に合併しやすい身体症状 認知症高齢者の尿失禁. 認知症ケア事例ジャーナル, 9(4), 423-427.

梅崎かおり, 堀内ふき(2017). 【認知症をどう教えるか】看護基礎教育における認知症教育の実際 認知症ケアへの関心を高める介護老人保健施設での実習. 看護展望, 42(6), 528-532.

梅崎かおり, 堀内ふき(2017). 認知症高齢者に合併しやすい身体症状 認知症高齢者の便秘. 認知症ケア事例ジャーナル, 10(1), 45-49.

梅崎かおり, 堀内ふき(2017). 認知症高齢者に合併しやすい身体症状 認知症高齢者の脱水. 認知症ケア事例ジャーナル, 10(2), 163-167.

梅崎かおり, 堀内ふき(2017). 認知症高齢者に合併しやすい身体症状 認知症高齢者の摂食嚥下障害. 認知症ケア事例ジャーナル, 10(3), 298-302.

吉田文子(2017). 看護技術なんでもQ&A, 実習お役立ちBOOK2017. Web版. 東京: 照林社